
[成果情報名] 促成栽培ナス及びトマトの灰色かび病に対するボトキラー水和剤ダクト内投入の効果的な利用法

[要約] ボトキラー水和剤ダクト内投入は促成栽培ナスの灰色かび病に対して単独の処理でも防除効果を示す。また、促成栽培ナスおよびトマト圃場で化学農薬と組み合わせることで灰色かび病果の発生を化学農薬のみの慣行防除よりも低く抑えることができる。

[キーワード] 促成栽培ナス・トマト、灰色かび病、ボトキラー水和剤、ダクト内投入散布

[担当部署] 病害虫部・病害チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作目] 野菜

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

消費者の農産物に対する「安全・安心」志向の高まりから、化学農薬の使用を削減することが求められている。こうした中、本県では減農薬減化学肥料栽培認証制度を設け、化学農薬の使用量を現行の 50 % に削減することを推進している。化学農薬の使用を削減するためには代替資材やその他の防除技術を利用した総合的病害虫管理が必要であるが、虫害分野に比べて病害分野は代替資材や技術の開発利用は遅れている。そこで、促成栽培ナスおよびトマトを対象に生物農薬のボトキラー水和剤を用いた省力防除技術であるダクト内投入散布について、単独処理の防除効果を確認すると共に化学農薬と組み合わせた場合の防除効果を検討し、本技術の効果的な利用方法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 . ボトキラー水和剤ダクト内投入散布は灰色かび病の発生前から処理を行えば単独処理でも促成栽培ナスの灰色かび病果の発生を無処理よりも著しく低く抑えることができる。さらに化学農薬の散布と組み合わせることで発病抑制効果が高まる (図 1) 。
- 2 . 促成栽培ナスおよびトマトの現地圃場においてボトキラー水和剤ダクト内投入散布と化学農薬散布を組み合わせると、化学農薬散布のみの慣行防除区よりも灰色かび病果の発生を低く抑えることができる (図 2 および図 3) 。
- 3 . ボトキラー水和剤ダクト内投入散布によりナス、トマトの花および葉にボトキラー水和剤の有効成分であるバチルス・ズブチリス菌が約 2.0×10^4 cfu/cm² 程度定着する。これは、ボトキラー水和剤の液剤散布の場合とほぼ同等の定着量である。(データ省略) 。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 促成栽培ナスおよびトマトの現地圃場における灰色かび病省力防除にボトキラー水和剤ダクト内投入を導入する場合に参考となる。
- 2 . 本剤の特性として予防効果のみなので、灰色かび病の初発前に処理を開始する。
- 3 . ボトキラー水和剤ダクト内投入散布は、暖房機稼働期間中 10a 当たり 10 ~ 15g 量を毎日施用する。

[具体的データ]

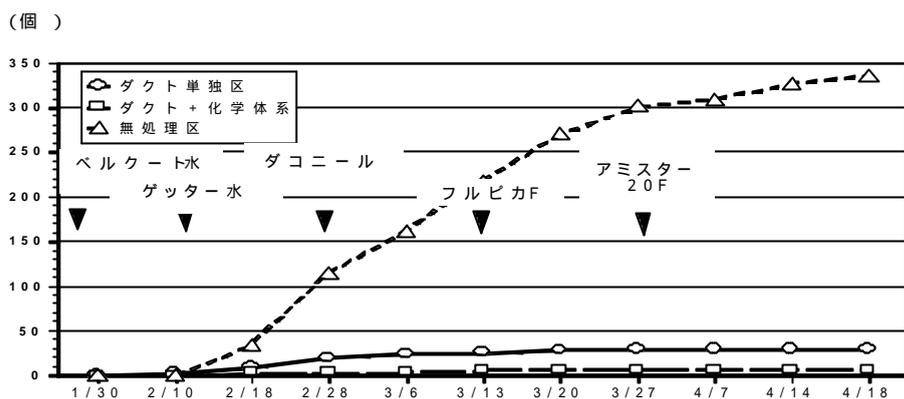


図1 ナス灰色かび病累積発病果数の推移(場内試験:平成17年)

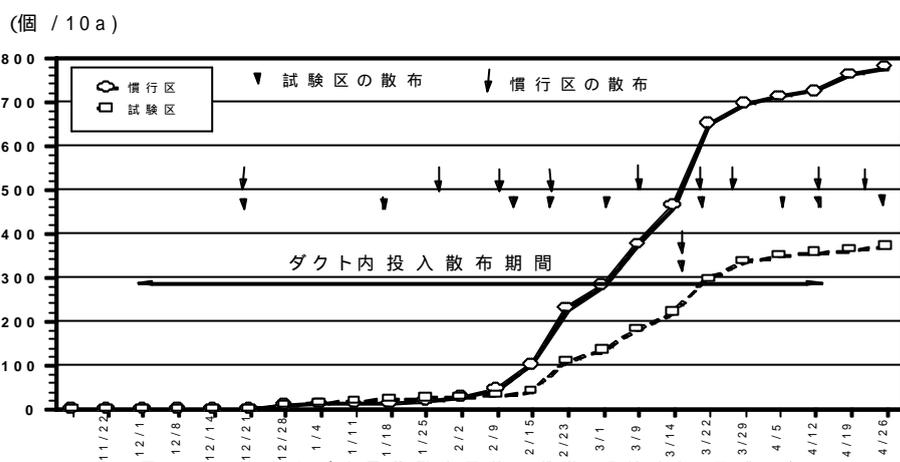


図2 ナス灰色かび病累積発病果数の推移(現地実証:平成17年)

試験区の散布実績(成分回数計:20回) 慣行区の散布実績(成分回数計:21回)

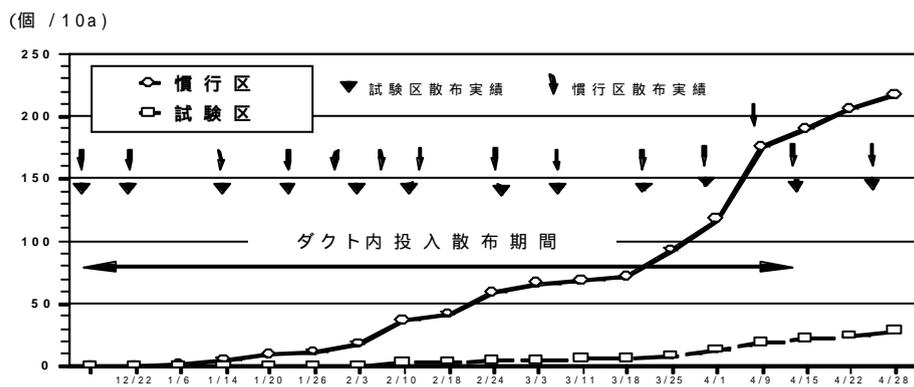


図3 トマト灰色かび病累積発病数の推移(現地実証:平成16年)

試験区の散布実績(成分回数計:14回) 慣行区の散布実績(成分回数計:16回)

[その他]

研究課題名: 施設果菜類における50%減農薬防除体系の確立 トマト・ナスの減農薬防除体系の確立

予算区分: 経常

研究期間: 平成17年度(平成15~17年)

研究担当者: 石井貴明、嶽本弘之